

週間火山概況 (平成 21 年 4 月 17 日 ~ 平成 21 年 4 月 23 日)

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

24 日(期間外)、桜島に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 3 (入山規制) から 2 (火口周辺規制) に引き下げた。

その他の火山は、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴 (4 月 17 日 ~ 4 月 24 日 (期間外含む))

発表日時	火山名	警報・予報	概要
4 月 24 日 14 時 00 分	桜島	火口周辺警報	噴火警戒レベルを 2 (火口周辺規制) に引下げ
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 4 月 24 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 2 (火口周辺規制)	浅間山、三宅島、桜島、薩摩硫黄島、 口永良部島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象 に関する海上警報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル 1 (平常)	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道 駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、安達太良山、磐梯 山、那須岳、草津白根山、御嶽山、富士山、 箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、 霧島山 (新燃岳)、霧島山 (御鉢)
	平常	上記以外の活火山



図 1 噴火警報発表中の火山 (4 月 24 日現在)

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

あさまやま 浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

山頂火口からの噴煙量はやや多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上 100～300m で推移した。

22 日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、山頂火口内の火口底中央部とその周辺に高温領域が引き続き認められるなど、依然として熱活動の高まった状態が続いている。また、火口底中央部には、2月2日の小噴火によって形成されたとみられる直径 50m 程度の窪地が確認された。

火山性地震及び火山性微動はやや多い状態が続いている。

GPS による地殻変動観測では、2008 年 7 月初め頃から深部へのマグマ貫入を示すわずかな伸びの傾向がみられている。

光波測距観測¹⁾では、昨年 8 月頃からみられていた山頂部のごく浅いところの膨張によるものと推定される縮みの変化がやや鈍化している。

浅間山では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口から概ね 2 km の範囲では大きな噴石²⁾に警戒が必要である。また、風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石²⁾に注意が必要である。なお、火山ガス放出量の多い状態が続いているので、風下側にあたる登山道等では火山ガスにも注意が必要である。

- 1) レーザなどを用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器。山体の膨張や収縮による距離の変化を観測している。
- 2) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

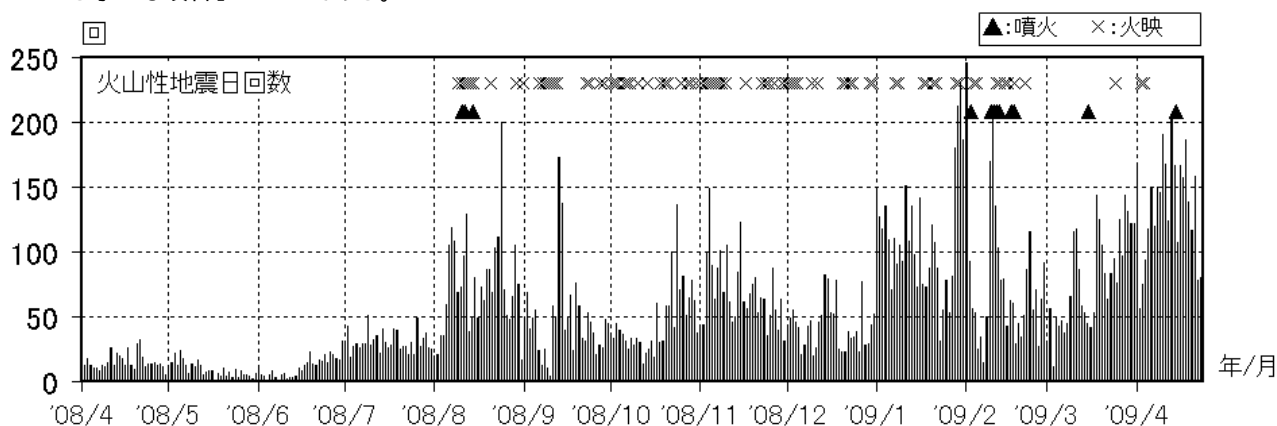


図2 浅間山 火山性地震の日別回数 (2008年4月1日～2009年4月23日)

みやげしま 三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

18日に山頂火口でごく小規模な噴火が発生した。

18日01時06分頃、振幅のやや大きな低周波地震が発生した。地震発生時の噴煙の状況は雲のため不明であったが、同日朝に行った現地調査で、三宅島の南東側から南側の山麓（山頂火口から約 3 km）で微量な降灰を確認した。噴火が発生したのは4月1日のごく小規模な噴火以来である。

噴煙高度は火口縁上100～200mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

三宅村によると山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

三宅島では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には土石流にも注意が必要である。

いおうとう 硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、国土地理院の観測によると、2006 年 8 月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は継続してい

る。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

福岡ノ場 [噴火警報(周辺海域警戒)及び火山現象に関する海上警報]

21日に海上自衛隊が上空から行なった観測によると、福岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる気泡を伴う変色水が確認された。福岡ノ場付近の海面では、長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福岡ノ場では引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

桜島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)] 24日(期間外)に噴火警戒レベル3(入山規制)から引下げ

昭和火口では、2月28日から4月10日(期間外)にかけて爆発的噴火を含む噴火が断続的に発生したが、その後爆発的噴火は発生していない。11日(期間外)以降、昭和火口及び南岳山頂火口で発生したのはいずれもごく小規模な噴火であった。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いており、大隅河川国道事務所が有村観測坑道に設置している傾斜計及び伸縮計の観測では、山体の膨張と考えられる特段の変化は認められない。

これらのことから、昭和火口及び南岳山頂火口から2km程度の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性が低くなったと考えられ、24日14時00分(期間外)に噴火警戒レベルを3(入山規制)から2(火口周辺規制)に引き下げた。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いているが、桜島直下にマグマが新たに移動したことを示す地殻変動は観測されていない。

桜島では、昭和火口及び南岳山頂火口から1km程度の範囲では、噴火に伴う大きな噴石²⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石²⁾(火山れき³⁾)に注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

3) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上50~400mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。

口永良部島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

島内に設置した遠望カメラにより、白色噴煙が時々観測され、噴煙高度は火口縁上20~400mで推移した。

火山性地震はやや減少したものの、継続時間の短い火山性微動が時々発生している。

GPSによる地殻変動観測では、2008年9月以降続いていた新岳火口浅部のわずかな膨張を示す変化が2009年2月以降鈍化している。

口永良部島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石²⁾に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石²⁾にも注意が必要である。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

御岳火口では、爆発的噴火が2回発生した。これらの噴火に伴う噴煙の高さは最高で火口縁上800mであった。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、17日に集落(御岳の南南西約4km)で少量の降

灰が確認された。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、今後も御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では大きな噴石²⁾に警戒が必要である。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域嚴重警戒 または山麓嚴重警戒
レベル4（避難準備）	火口周辺警報	入山危険
レベル3（入山規制）	噴火予報	火口周辺危険
レベル2（火口周辺規制）		平常
レベル1（平常）		

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。